

子供たちはなぜ 学校に行くのか

名古屋大学
心の発達支援研究実践センター
准教授

五十嵐哲也 氏



教育随想



平成 30 年 1 月 1 日

1 月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
名古屋大学 心の発達支援研究実践センター 准教授	五十嵐哲也 氏
この人に聞く……………	2
伝統工芸士	楠名 康弘 氏
羅針盤……………	2
理科指導員	川端 啓介
ふれあい……………	3
竜海中学校	瀧 将太
特集……………	4
災害に備えるレッドサラマンダー	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
子ども銀行 (昭和 46 年)	
この本を……………	8

私たちが社会で何かしらの行動をする際には、その行動を起こそうとした理由、続けようとした理由、なぜ学校へ通勤しているのでしょうか。隣の先生と話してみると、「毎日のことだから何となく」「生活のため」「仕事にやりがいがあるから」など、人によってさまざまな答えが返ってくることでしよう。

こうした「行動の理由」を整理すると、次のような四つに分かれることが知られています。すなわち、①報酬や罰、人からの忠告などが理由になるもの（例…怒られるから）、②行動しなければならぬ義務感や不安感が理由になるもの（例…当たり前だから、そうしないといけないと思うから）、③行動することが自分にとって重要だという感覚が理由になるもの（例…そうすることが自分の役に立つから）、④行動そのものに興味があったり、行動することに楽しさを見出していたりするもの（例…そうしたいから）というものです。そして、④になるほどその理由は自発的で、他者に左右されず自分

で行動を決定していると言えるものになります。

このような考えは、子供たちが学校に登校するという行動にも適用できます。子供たちに尋ねると、「親が行けって言うから」「子供は学校に行くものでしょ」「学校に行かないと、進路に響くから」「友達と会いたいから」など、様々な理由で登校していることがわかります。そして、「授業が楽しいから」「クラスが楽しいから」などの、より自発的な内容を登校の理由として挙げている子供ほど、登校したくない気持ちも少なく、実際の遅刻や早退日数も少ないことがわかっています。そこで、このような子供たちの学校生活を調べてみると、先生の授業や、先生との

雑談やふれあいを楽しみしており、先生を信頼している子供が多いこともわかりました。子供たちの登校意欲を高め、不登校を予防するためには、何よりもこうした日々の生活を大切にすることが必要であることを再認識させられます。

朝、子供たちを迎えるとき、個々の子供の顔を見て、「この子は今日、どんな気持ちで学校に来たのか」を想像してみてください。そして、その子供がより自発的に学校に来たくなるためには何が必要か、そのために先生は何かできるかを考えてみてください。そのような思いを巡らせて実践することが、子供たちの明日につながるのではないのでしょうか。

(いがらし てつや)



新たな春に思いを巡らせ

この人に聞く



日本一の石工になりたい

伝統工芸士

楠名 康弘 氏

伝統工芸士は、経済産業大臣が指定する伝統的工芸品の製造に従事する技術者の中から、高度の技術・技法を保持する者に与えられる。この資格をもつ楠名氏は、幼いころから石工になることを夢見ていた。

「子供のころ、家に帰ると、毎日父が汗を流し、鋭い眼差しで仕事をしています。その姿がとにかく格好良かった。一緒に働く職人さんも格好良かった。この中に僕も入りたいと自然に思っていました。僕が描いた灯籠を作って欲しいと、と父に絵を見せて頼んだこともあり。石が好きというよりは、石屋が好きです。小学校の卒業文集には『日本一の石工になる』と書いていました。」

高校を卒業するとすぐに、憧れていた職人の世界に飛び込んだ。

「職人の世界は厳しいです。できるようになりたければ、自分で見て盗め、と。初めはなかなか思うようにはならず、石という素材が私を試しているように感じました。修業もきつかったです。石は重く、加工しうとすると、埃や音も激しいです。若者から敬遠されがちな仕事環境ですが、石工を辞めたいと思ったことは一度もないですね。」

厳しい修行を重ねるうち、楠名氏の石に対する思いは次第に変化する。「石には冷たいイメージをもちやしますが、作るものによって表情が変わることに気付きました。まるで作り手の気持ちで投影されるかのようです。手を加えることで、温かくも冷たくもなります。経験を積み上げ、今、ようやく石と対等になれた気がします。こちらの気分がいいと、石も調子よく切れます。今は、石という素材も好きです。」

飽くなき向上心と日々の修練が、楠名氏の技に磨きをかけた。

「九十五点でも九十八点でも嫌です。百点満点の作品を作りたい。原石を削り、ダイヤモンドのように魅力的な作品にする。これが楽しいのです。二十一歳で技能五輪全国一位をいただいて、率直に嬉しかったですが、全国一位の名を汚してはいけません。」

いう責任感が湧き、さらに上を目指そうと思いつけています。」

プライドと情熱をもち、今もなお追い続ける「日本一の石工」の姿を、楠名氏は熱く語る。

「私が考える『日本一の石工』とは、誰もが認める技術と知識、品格をもち、伝統を守る人、ですね。だから私は向上心をもち続け、信頼される石製品を作り続けます。岡崎の石工業は発祥から五百年たちます。自分の代で終わらせず、次の世代につなげたい。岡崎の石製品のレベルの高さを守り、石工を増やし、石工の仕事の楽しさを若い人に知ってもらいたいと思います。そのために、私は技を磨き、格好良い姿を後世の人たちに見せていきます。『日本一の石工になる』という気持ちは、子供のころからずっと変わっていません。」

たゆまぬ前進を続ける楠名氏は、石の都岡崎の未来を見つめている。



氏名 康弘 やすひろ
生年月日 昭和四十九年十月十九日
住所 岡崎市米河内町



「理科の見方・考え方」を働かせる授業づくり

理科指導員

川端 啓介

新しい学習指導要では、「理科の見方・考え方」を働かせる学習を大切に扱っている。

五年生「電磁石の性質」の授業を見た。この単元を含むエネルギーの領域では、現象を定量的な視点で捉えることが理科的な見方の部分にある。授業者も子供が電磁石の強さを導線の巻き数と関連付けた視点で考えることをねらいとした。

導入でA教諭は、乾電池一つで約六〇キログラムの重さを支えられる電磁石を提示した。子供たちは声をあげて力の強さに驚いた。そして、「コイルがある」「鉄芯もある」と、子供は自分の電磁石と仕組みに違いがないことを確認した。

このとき、コイルに注目した子供が「すぐく巻いてある」とつぶやいた。A教諭はこれを逃さず拾い、量的な視点へと子供の意識を向かわせた。



自分たちで作り上げるチームへ

竜海中学校
瀧 将太

六月、西三大会の女子四×一〇〇メートルリレーが終わった。ライバルのA中学校に、〇・〇二秒差で競り負けた。これでA中学校に対する連敗記録は、通算十一となった。大会が行われる度に「次は絶対勝とう」を合言葉にしてきた。この日の敗因は、自信が見られない消極的なバトンパスの連続であったことだ。レース後、「バトンパスを失敗して〇・〇二秒差なら、次は勝てるね」という選手の言葉に危機感をもった。リレーメンバーは一、二年生が多く、自分たちで何かを変えようとする意識が足りないことが課題だった。確かに、四月から五月にかけて、各種の大会で選手は次々と一〇〇メートルの自己記録を更新した。しかし、走力で相手に勝っても、それだけではリレーで勝てない。レース後、「次は勝てる」と甘く考えていないのか、今日、最善を尽くせていないのなら、次だって勝てないぞ。」と、強く訴えた。「次は」という言葉の中に、選手にも自分にも「次も…」

という思いを感じていた。その思いを払拭したいと思って発した言葉だったが、一瞬、選手の表情が変わった。いつもの負けたときの表情と少し違う。何かが変わる予感がした。そこで、進んで行動できるチームへと変えるために、控え選手の三年生二人をチーム代表とし、チーム内の活性化を図ろうと考えた。「六人の力でチームを作り上げる。バトンパスを強みにできるチームにしよう。」

この方向性に、選手も同意した。目指すバトンパスの形を確認し、目的意識をはっきりさせた。課題は何か、何のための練習なのかを問いかけ、練習でも着眼点を示しながら改善した部分を常に確認した。初めは自分の考えを伝えられなかった生徒も、回を重ねるうち、少しずつ気付きを伝えるようになった。特にチームをまとめ、客観的に助言できる三年生の存在は大きく、下級生も安心して練習に取り組むようになった。そんな矢先、メンバーから思いもけない申し出があった。「先生、アンダーハンドパスに挑戦したいです。」

県総体まで、残り一か月だった。バトンパスの変更には大きなリスクが伴う。後に知ったことだが、リレーのメンバーは、バトンパスの完成度を高めるため、それぞれの親に頼んで競技会場に赴き、自主練習をしていたのだ。受け身だったメンバーが行動を起こした。リスクもあるが、可能性もあった。悩んだ末に、「分かった、アンダーに変えよう。」と伝えた。六人は大きく目を開いた。

「ただし本場に時間がない。無理だと判断したら戻す。」

その後の練習では、アンダーハンドパスを自分たちの強みとすべく、真剣に練習に向かう姿があった。「もつとスピードに乗って渡したい。もう一足早く出ていいよ。」

「でも、アンダーは近い距離で渡す方がいいと思う。」互いに相手を意識し、その時々に必要なことを助言し合うチームへと変貌しつつあった。私は、現状を変えようとする姿を積極的に褒めた。大会直前、エースが故障した。メンバーと相談し、二区間はオーバードハンドパスに戻すことに決めた。うつむく生徒たちに、

「この一か月間は無駄じゃない。バトンパスの方法が何であっても、今の君たちなら大丈夫だ。」と背中を押した。

県総体では、練習通りのバトンパスでA中学校に競り勝ち、優勝した。自信をもって走る選手の姿には、自分たちで困難を乗り越えた自信が見えた。全国大会優勝を成し遂げたチームの分岐点である。



ここではさらに、「どれくらい巻けば強くなりそうか」などの問いを発するとよい。これにより、子供をより量的な視点に導き、「コイルを多く巻いてみたい」とする達成要求をもたせることができる。

コイルの巻き数を変化させ、磁力の強さを調べる段階で、子供は理科的な考え方を働かせる。五年生では条件制御がこれにあたる。変化させる要因と変化させない要因を考慮して比較することで、科学的に検証するために必要な考え方を身に付ける。

この場面では、電流の大きさは変えずに、調べたいコイルの巻き数のみを変え、比較する。五十回巻きと百回巻きなど、教師主導で全員が決まったコイルの巻き数で磁力の強さを調べる授業をよく目にするが、ここはひと工夫したい。「どうすれば予想が確かめられるか」「今までに経験した方法を使えないか」など、条件制御を行いつつ、探求の方法を思考させ、理科的な考え方が働くようにするのが重要である。結果、

「ぼくは五十回と二百回を比べる」「私は百回巻きと三百回巻き」という具合に、個々に実験方法が異なる場合が生じる。得られる結論は決められた巻き数の実験と同じかもしれない。しかし、その背景は異なる。

多くの実験から得た結果は、実証性、再現性、客観性を伴った確かな結論として子供の中に残る。これが深い学びにつながるのである。



災害に備える

緊急消防援助隊
全地形対応車

レッドサラマンダー



▲土砂崩れによる岩場を乗り越え、日田市の孤立集落に向かうレッドサラマンダー

写真提供：岡崎市消防本部

備え、万全の体制を整えている。

緊急消防援助隊とレッドサラマンダーは、いつ、どこで起こるかわからない災害に備え、万全の体制を整えている。

災害と無縁でいられない日本において、レッドサラマンダーが担う役割は大きい。

緊急消防援助隊は、全国の消防機関が相互に連携し、日本各地で発生した災害に対し、迅速に対応するための組織である。

レッドサラマンダーが岡崎市に配備された理由としては、岡崎市が日本のほぼ中央で高速道路に近いこと、地震発生時に津波の恐れがないことなどが挙げられる。

全地形対応車「レッドサラマンダー」は、平成二十五年三月、岡崎市消防本部に配備された。この車両は、東日本震災で津波による甚大な被害を被ったことを教訓とし、総務省消防庁が緊急消防救助隊所属の車両として導入した、日本で唯一の車両である。



▲レッドサラマンダー専用の搬送車両

- ◇レッドサラマンダーは単独で走行可能だが、より迅速に移動するために専用の搬送車に積載され、全国に移動する。
- ◇遠隔地の派遣に備え、自衛隊輸送機への積載訓練を行う。
- ◇出動時には、物資の運搬や隊員の拠点となる支援車両も伴う。



◀ぬかるんだ土砂を走破するレッドサラマンダー



▲緊急脱出用の上部ハッチ (前部キャビンにも装備) ▲方向転換を油圧で操作する連結部分 ▲時速 50 キロを可能にする 7.2リットルディーゼルエンジン ▲自動変速機で乗用車のように操縦できる運転席



▲救命胴衣や担架など、災害時に必要な物品を装備

- ＜主な仕様＞
- ◇乗車定員：10名（前部4名・後部6名）
 - ◇総重量：12,130キログラム
 - ◇出力 224キロワット ◇最小回転半径：8メートル
 - ◇摂氏マイナス35度まで使用可能
 - ◇水深 1.2メートルまで走行可能



▲跳ね上げ式の椅子で積載容量を確保した後部キャビン



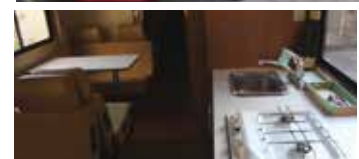
▲水中で水かきの役割も果たすゴム製クローラ

▲通行を妨げる障害物を撤去するために装備されたウインチ



▲緊急消防援助隊を支援する車両 (停車時は車体を広げ、居住性を高めることができる)

全国で救援活動を行うための装備と支援



▲長期任務に対応できる車内空間



▲任務に必要な救助資機材を運搬



▲緊急消防救助隊と連携する自衛隊輸送機



● 教育最新情報

◆第51回愛知県教育研究論文

今年の愛知県教育研究論文では、岡崎市から佳作一点が選ばれた。

昨年度より、表紙に写真などの資料を載せないことが留意事項に加わっている。市の論文募集も同様である。文字数や資料の載せ方、引用方法などに十分に気をつけて執筆する必要がある。

また内容面では、理論部分の整合性や実践部分の検証などの点において、「研究論文」として筋の通ったものとなるように、論文執筆についての研修を積んでほしい。

○佳作(個人)

梅園小学校 井畑絵美里 「算数的活動を通して、主体的に学び、筋道を立てて考える授業」―4年『面積』の実

践を通して―

◆平成三十年度全国学力・

学習状況調査

○調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

○調査事項

小学校は、国語・算数、理科
中学校は国語・数学・理科で、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

○調査の方式

今年度に引き続き、小学校六年生と中学校三年生全児童生徒を対象とする悉皆調査が行われる。

本調査を行うことにより、児童生徒の学習状況を把握・分析して、教育施策の成果と課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等をきめ細かく行う。

○調査実施日

平成30年4月17日(火)

◆平成三十年度岡崎市教員免許状更新講習

平成三十年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。夏期休業中に、無料で行う。

講習は、岡崎の教育に携わる講師により、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な内容とする。

○受講対象者

- 一 平成三十年度に岡崎市立学校(こども園等に勤務する本務職員と常勤講師・非常勤講師・教員補助者で、次の生年月日に該当する者
- 昭和39年4月2日()
- 40年4月1日()
- 昭和49年4月2日()
- 50年4月1日()
- 昭和59年4月2日()

四 その他、岡崎市教育委員会が必要と認める者

来年度から新免許状所有者の免許更新が本格的に始まる。

新免許は免許状に有効期間満了日が記載されているので、受講対象者自らがしっかりと確認し、確実に更新講習受講申請をする。また、各園・学校で受講対象者について確実に把握する。受講申込書の提出は、四月に行う。

○受講申し込み期間

平成30年4月2日(月)～4月16日(月)

○講習期日と会場

①必修講習 平成30年7月29日(日)

②選択必修講習 平成30年8月4日(土)

③選択講習 平成30年8月6日(月)・7日(火)・8日(水)

会場は総合学習センター等

○受講対象者説明会

平成三十年度の受講対象者に対し、説明会を次のように行う。

・日時

平成30年2月23日(金)

受付 午後五時半()

・場所

総合学習センター

◆研究発表について

本年度、北野小学校、竜美丘小学校、福岡中学校の三校の市委嘱研究発表において岡崎市の教育に対する大きな研究成果を得ることができた。

《平成三十年度研究発表校》

来年度の研究発表予定校は、次の四校である。そのうち、市委嘱校が三校、自主発表校(紙上発表)が一校である。

○市委嘱研究発表校(三校) 六ツ美南部小学校 十月十七日(水)

六名小学校 十一月七日(水)

城北中学校 十一月十四日(水)

○自主発表校(一校) 竜海中学校(紙上発表) (附属学校) 附属岡崎中学校 十月二日(火)

附属岡崎特別支援学校 十一月九日(金)

附属岡崎小学校 十一月十六日(金)

表彰

◆全日本フィギュアスケート

ジュニア選手権大会

男子フィギュアスケート

三位 竜海中 壺井達也

◆愛知県中学校総合体育大会

男子フィギュアスケート

優勝 竜海中 壺井達也

◆愛知県駅伝

男子 竜海中学校

二位 竜海中学校

女子 矢作中学校

三位 矢作中学校

○区間賞(男子)

第一区 翔南中 後藤謙昌

第二区 新香山中 谷口晴菜

第五区 六ツ美北中 渡辺萌莉

◆愛知県中学生強化選手選考会

中学生60kg級男子柔道

二位 東海中 竹市裕亮

◆愛知県市町村対抗駅伝競走大会

○総合

三位 三島小 杉田晃大

六名小 壁谷裕奈

竜海中 小林亮太

○市の部

区間賞 三島小 杉田晃大

◆駅伝カーニバル

○中学男子の部男子駅伝カーニバル

ニバル

優勝 竜海中学校A

二位 竜海中学校B

○区間賞

第二区 竜海中 小林亮太

第四区 竜海中 鈴木仁都

◆中部の未来創造大賞

常磐東小学校

◆全国学芸サイエンスコンクール

読書感想文

読書感想文部門

努力賞 大門小 高倉歌乃

作文/小論文

旺文社赤尾好夫記念賞(入選)

大門小 加藤由麒

◆毎日パソコンコンクール

第五部和文A中学生

四位 福岡中 川島佳奈

◆学校作文コンクール県審査

小学校低学年の部

優秀賞 奥殿小 白井杏奈

佳作 奥殿小 太田零月

小学校高学年の部

優秀賞 城南小 戸市佳乃

佳作 六名小 岡田理希

中学校の部

優秀賞 甲山中 樋口月渚

佳作 六ツ美中 稲前恵潤

◆小学校作文コンクール

愛知県教育委員会賞

梅園小 氏家陸登

◆全国小・中学校作文コンクール

愛知県審査

最優秀賞 甲山中 杉浦さくら

優秀賞 甲山中 樋口月渚

◆青少年読書感想文愛知県コンクール

小学生読書感想文

愛知県知事賞

藤川小 富田 栞

◆県赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール

ポスターの部

佳作 大樹寺小 鳥居瑠生

◆市赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール

書道の部

金賞 竜海中 小野未紗

美合小 石原透真

常磐中 颯田妃南

常磐中 松木遙大

優秀賞 葵中 水野風紗

常磐中 近藤暉里

ポスターの部

金賞 大樹寺小 鳥居瑠生

税に関する作品

習字の部

東海納税貯蓄組合連合会長賞

緑丘小 金本桃花

税務署長賞

梅園小 石原理子

◆J A 共済小中学生書道・交通安全ポスターコンクール

市環境ポスターコンクール

美合小 齋藤陸乃介

大樹寺貫主賞

○ポスター

金賞 北野小 寺島彰吾

銀賞 秦梨小 畔柳万里江

本宿小 平山ふたば

南中 河内千歳

北野小 濱田徠夢

常磐南小 安岐颯起

南中 難波希実

書道

半紙

城南小 内田 結

六名小 丹下昊輝

美合小 田中晴基

美合小 齋藤陸乃介

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

矢作南小 次田宗太郎

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

○ごみ減量部門

最優秀賞 梅園小 山村拓幹

河合中 倉橋佑征

○環境美化部門

最優秀賞 梅園小 三輪耕平

河合中 杉田絢美

○海ごみ部門

最優秀賞 大門小 中敷領暉己

葵中 大矢祥生

◆徳川家康公作文コンクール

最優秀賞 藤川小 松田真依

優秀賞 井田小 海老澤亮誠

三島小 判治孝哉

葵中 板倉六穂

岡崎市教育委員会教育長賞

大樹寺小 太田幸佑

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

矢作南小 次田宗太郎

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

龍城神社宮司賞

岡崎商工会議所会頭賞

大樹寺貫主賞

伊賀八幡宮宮司賞

・カ
ツ
ト
城
北
中
谷
上
典

子ども銀行 (昭和46年)

写真提供：奥殿小学校

子ども銀行は、金融の仕組みを教え、貯蓄習慣を身に付けることをねらいとし、昭和二十三年の大蔵省と文部省の通達により始まった。この活動は、金融機関の協力もあり、全国に広まった。

奥殿小学校では、昭和二十八年から昭和五十八年までの約三十年間、子ども銀行に継続して取り組んだ。当時は高学年の児童を窓口で学校で貯金し、社会の仕組みや金銭の価値を学ぶ機会であった。

その後、金融機関の負担などを理由に、子ども銀行は姿を消した。物やお金を大切にすることは、消費者教育の一環として、家庭科、社会科などの教科や道徳の中で、今もなお受け継がれ、育まれている。



隣との間隔を広げ、下敷と文鎮を用意する。すずりに注がれた墨汁が、静まり返る教室に清々しい香りを放った。これで準備は万端だ。真っ白な書き初め用紙に、漆黒の筆跡が残される。

「先生、今日、一番うまく書けたよ。」

笑顔の向こうに、新年への決意を感じる。

どホ

睦月



書き初め会 (上地小)

埃と汗にまみれ、腕と心意気のすべてを注ぎ、石職人は一心にたがねを打つ。寡黙な昔気質の職人にはなりたくないと言いつつ、楠名氏は一切妥協せず、この道を極めようと、日々精進する。

楠名氏に憧れ、石工を志す若者の心意気も熱い。

とツ

津波や土砂災害など、生命が脅かされる危機に迅速に対応する。救難ヘリや他の車両でも任務遂行が困難な状況でこそ、その真価を発揮するレッドサラマンダー。「助けられる命は助けたい。」

赤い車体に、大分県に赴いた隊員の高い志と使命感が宿る。



頭の中を「言葉」にしてうまく伝える。

*頭の中を「言葉」にしてうまく伝える。山口 諤司 株式会社ワニブックス ￥1,400

心に残った一文
迷い、行き詰ったときにはぜひ、古典を聞いてみてください。

私たち教職員は、考えを「言葉にしてうまく伝える」必要がある場面が多い。

文献学等を専門とする筆者は、「自分の頭の中にある考えを明確にする技」と「考えを伝える技」を知るとよいと言う。具体的には、思考の可視化・言語化、語彙力、伝え方が重要だと説く。古典や詩歌に親しむことは、見方や考え方、感じ方を幅広くし、語彙力をつけ、言葉のリズムを伝え方に生かすことができ、いずれにも役立つと述べている。

自らの伝え方を見直し、改善へと向かうきっかけとなる一冊である。

- *国連で学んだ 修羅場のリーダーシップ 忍足 謙朗 ￥1,500
文藝春秋
- *よみがえる飛騨の匠 岡田 賛三 ￥1,400
幻冬舎
- *人生は引き算で豊かになる 有馬 頼底 ￥1,280
文響社

恵田小 牧野 守